

県内最大級の渡御 すぎとなつ 杉戸夏まつり

■開催日程
2016年7月16日(土)・17日(日)
■開催場所
東武動物公園駅 東口下車 徒歩1分
駅前通りおよび旧日光街道 (下記MAP①)



杉戸夏まつり 実行委員長
アトリエル・ミュゲ オーナーシェフ
渋谷 忠明さん

大人神輿が大通りを練り歩く

2日間に渡って行われる杉戸の夏まつり。日中は、子どもたちによる鼓笛隊パレード、子ども山車、よさこいソーランなど多彩な催しが楽しめます。夜は、まつりの目玉である迫力ある大人神輿が登場。最も多いときに13基の神輿が町に練り出す渡御は、県内でも最大級のスケールです。

Q まつりの起源を教えてください!

A 八坂神社の商売繁盛・疫病退散などを祈願したものです。

五穀豊稔、家内安全、商売繁盛、疫病退散などを祈願したもので、約200年の歴史を誇る、由緒ある杉戸のお祭りです。

Q まつりの見どころは?

A 昼と夜でまったく違う! 両方の雰囲気を感じてください。

昼間は幼稚園・小学校ごとの鼓笛隊パレードが好きですね。全校合わせて200名ほどの子どもたちが、沿道でお父さんお母さんに応援されながら演奏する姿は可愛らしいですよ。昨年から「すぎびよん音頭」も演奏リストに加わりました。夜は何と言っても大人神輿でしょう。熱気あふれる渡御をぜひ見てほしいです。

Q 開宿400年ならではのイベントはありますか?

A 町内外に「開宿400年」をアピールするイベントを考え中です。

まだ詳細はお伝えできませんが、せっかくの開宿400年なので、特別なイベントをしたいと思っています。

Q 最後に、今年の意気込みをどうぞ!

A 杉戸の底力を発信したいと思ってます!

歴史と伝統ある夏まつりをさらに発展させて、杉戸の「底力」を発信したいですね。



1: 最大の見所である、夜の大人神輿。迫力満点。2: 日中の子ども神輿。3: 地元の幼稚園、小学生たちによる鼓笛パレード。4: 本陣跡地前の交差点では、よさこいやソーランが披露される。

杉戸の夏を 代表する祭り

動の夏まつり 静の流灯まつり

日本一大きな灯ろうが浮かぶ、杉戸の風物詩

毎年8月上旬に、畳1畳分の灯ろう250~260基を杉戸町と隣の宮代町との境を流れる古利根川に浮かべるお祭り。2列になった灯ろうがおよそ1kmに渡って浮かぶ様は「地上に降りた天の川」とうたわれる美しさです。平成6年より、杉戸町観光協会主催として開催されています。

Q まつりの起源を教えてください!

A 杉戸町と宮代町が町のPRを兼ねて灯ろうを浮かべたのが始まりです。

流灯まつりは、昭和初期に始まりました。当初は杉戸町と宮代町の商店会が協力して、店のPRを兼ねた灯ろうを古利根川に浮かべるといって「町の活性化」を目的にした祭りだったようです。

Q まつりの見どころは?

A 8月3日に行われる150人規模の設置作業は見ものです。

もちろん、1kmに渡った灯ろうの眺めが見どころ...なのですが、実は、2日間におよぶ設置作業も見ものなんです。のべ150人ほどの大人が集まり、古利根川の真ん中で船作業を行う様子をぜひ見てみてください。

Q 開宿400年ならではのイベントはありますか?

A 人力車に乗って灯ろうを眺めることができます。

昨年、イベントとして人力車を設置したところ好評をいただいたので、今年は宮代町側から人力車に乗って灯ろうをご覧いただけるよう準備中です。人力車は昼も夜も走る予定です。

Q 最後に、今年の意気込みをどうぞ!

A 「川の国」埼玉を代表する川づくりを進めます。

この20年ほどで、古利根川はかなりきれいになってきました。インフラの整備もあるでしょうが、町の方々による川の清掃活動が増えてきているんですね。実行委員であるわれわれも、単に祭りを開催するに終わらせず、「川の国」埼玉を代表するような川づくりをしていきたいと思っています。

「地上に降りた天の川」 ふるとねがわりゆうとう 古利根川流灯まつり

■開催日程
2016年8月6日(土)・7日(日)
■開催場所
東武動物公園駅 東口下車 徒歩1分
古川橋~清地橋の間 (下記MAP②)



古利根川流灯まつり 実行委員長
栗原建設工業 代表取締役
栗原 偉憲さん



1: およそ1kmに渡って連なる灯ろうは幻想的な美しさ。2: 最終日には、フィナーレとして花火が打ち上げられる。3: 昼夜ともに人力車が川沿いを走る。4: 有志の本町昭和会が記録した流灯まつりの写真。期間中、流灯工房にて展示予定。